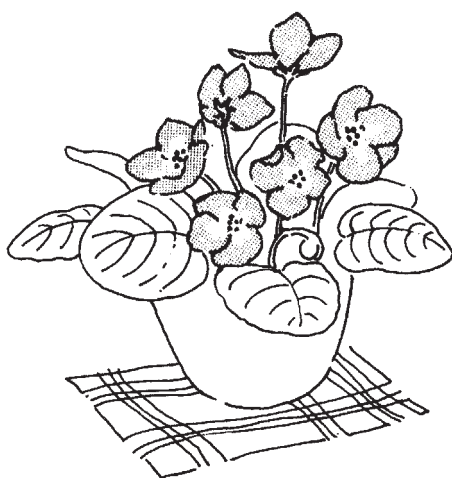


平成28年度

教職10年目研修の手引

(高等学校、特別支援学校)



栃木県教育委員会

目 次

I	教職10年目研修実施要項	1
II	教職10年目研修の概要	
1	本県における教職10年目研修の方針	2
2	教職10年目研修体系図（高等学校、特別支援学校）	3
III	教職10年目研修における評価、研修計画書等の作成	
1	研修前評価から研修後の書類提出までの流れ	5
2	研修前評価並びに「教職10年目研修関係書類送付書」及び「評価案」の作成	6
3	「研修計画書案」の作成	7
4	「教職10年目研修関係書類送付書」並びに「評価案」及び「研修計画書案」の提出	7
5	県教育委員会による調整及び決定	7
6	研修の実施	8
7	研修後評価並びに「教職10年目研修関係書類送付書」及び「評価表」の作成	8
8	「研修報告書」の作成	9
9	「教職10年目研修関係書類送付書」並びに「評価表」及び「研修報告書」の提出	9
10	留意事項	9
IV	総合教育センター等における研修	
1	趣旨	10
2	期日及び内容	10
3	公開授業A	12
4	児童・生徒指導、学級・ホームルーム経営に関する研修のコース選択	12
5	社会体験等研修	13
6	異校種体験研修	15
7	選択研修	17
8	「社会体験等研修」、「異校種体験研修」及び「選択研修」の報告書の提出	17
V	校内等における研修	
1	趣旨	18
2	研修日数	18
3	研修内容及び方法	18
4	指導体制	18
5	実施上の配慮事項	18
VI	課題研究	
1	趣旨	19
2	研究テーマの設定	19
3	研究の進め方	19
4	研究の実施報告	19
	[資料]	
○	提出書類の様式	21
○	研修計画書案（例）	25
○	校内等における研修項目（例）	26
○	提出文書等チェックリスト	27

I 教職10年目研修実施要項

栃 木 県 教 育 委 員 会
平成15年 3月 5日 決 定
平成17年 2月22日 改 正
平成19年 2月22日 改 正
平成21年 2月16日 改 正

1 目 的

本研修は、教育公務員特例法第24条の規定に基づき、教職経験10年目に当たる教諭等に対して、個々の能力、適性等に応じて研修を実施することにより、学習指導及び児童・生徒指導等に関する指導力の向上を図ることを目的とする。

2 対 象

県内公立小学校、中学校及び県立学校の教諭等のうち、在職期間が10年目に当たる者とする。

3 内 容

教職10年目研修は、確かな学力の向上を図るための学習指導及び「心の教育」を踏まえた児童・生徒指導を主な研修内容とし、次の日数行うものとする。

- | | |
|---------------------|-----|
| (1) 総合教育センター等における研修 | 10日 |
| (2) 校内等における研修 | 15日 |

4 研修の実施方法

- (1) 校長は、研修の実施に当たり、県教育委員会の作成した評価項目に基づき、個々の教員の能力、適性等について評価し、評価案及び研修計画書案を作成し、県又は市町村教育委員会に提出する。
- (2) 県又は市町村教育委員会は、校長から提出された評価案と研修計画書案について調整を行い、決定する。
- (3) 研修計画書に基づいた研修は、主として夏季・冬季の長期休業期間等に、総合教育センター等において実施するとともに、総合教育センター等の研修において習得した知識や経験を基に、校内等においても実施する。
- (4) 校長は、研修終了時に個々の能力、適性等を再び評価し、その結果及び研修報告書を県又は市町村教育委員会に提出するとともに、その後の研修等に活用する。

5 校内体制の整備

- (1) 校長は、研修計画書に従い、研修が円滑に実施できるよう、校内体制や当該教諭等の校務分掌等に配慮する。
- (2) 校長は、当該教諭等が総合教育センター等における研修を受講する間、授業等に支障が生じないよう配慮する。

6 実施協議会

- (1) 県教育委員会は、次の事項について協議を行うため、実施協議会を設置する。
 - ① 研修計画
 - ② 評価
 - ③ その他実施上の諸問題
- (2) 実施協議会は、県教育委員会教育次長（指導担当）を長とする。

7 その他

この要項に定めるもののほか、教職10年目研修の実施に関して必要な事項は別に定める。

附則

この要項は、平成15年4月1日から実施する。

附則

この要項は、平成17年4月1日から実施する。

附則

この要項は、平成19年4月1日から実施する。

附則

この要項は、平成21年4月1日から実施する。

Ⅱ 教職10年目研修の概要

1 本県における教職10年目研修の方針

本研修は、教職10年目に当たる教員に対し、学習指導、児童・生徒指導等に関して広い視野に立った豊かな識見、確かな理論、優れた実践的指導力等を養うものである。

そこで、確かな学力の向上を図る学習指導と、「心の教育」を踏まえた児童・生徒指導を柱とし、教員自らの課題や適性、得意分野等を再確認させ、一人一人の資質・能力の向上を図る研修内容・方法を工夫し実施する。また、地域との連携を図った教育の推進を目指し、異校種体験研修及び社会体験等研修を設定する。

本研修の特徴は、以下のとおりである。

<p>1 確かな学力の向上を図る学習指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none">○公開授業A・Bの実施（※1）○児童生徒による授業評価の実施（※2）○模擬授業やビデオ等による授業研究
<p>2 「心の教育」を踏まえた児童・生徒指導の推進</p> <ul style="list-style-type: none">○自己指導能力の育成を目指す児童・生徒指導の推進○学年・学級・ホームルーム経営の在り方○いじめ及び暴力行為等の問題や不登校など児童・生徒指導上の課題への対応
<p>3 地域との連携を図った教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none">○異校種体験○地域での社会体験等

本研修は、研修を受ける者（以下「研修教員」という）の能力、適性等について評価を行い、その結果に基づき、研修教員ごとに研修計画書を作成し、研修を行うものとする。また、研修終了後、再度、評価を行い、引き続き研修教員の指導や研修に活用する。

なお、総合教育センター等における研修と校内等における研修とを密接に関連させることにより、資質・能力の一層の向上を図るものとする。

（※1）公開授業について

研修教員の学習指導力の向上を図るため、公開授業を実施する。

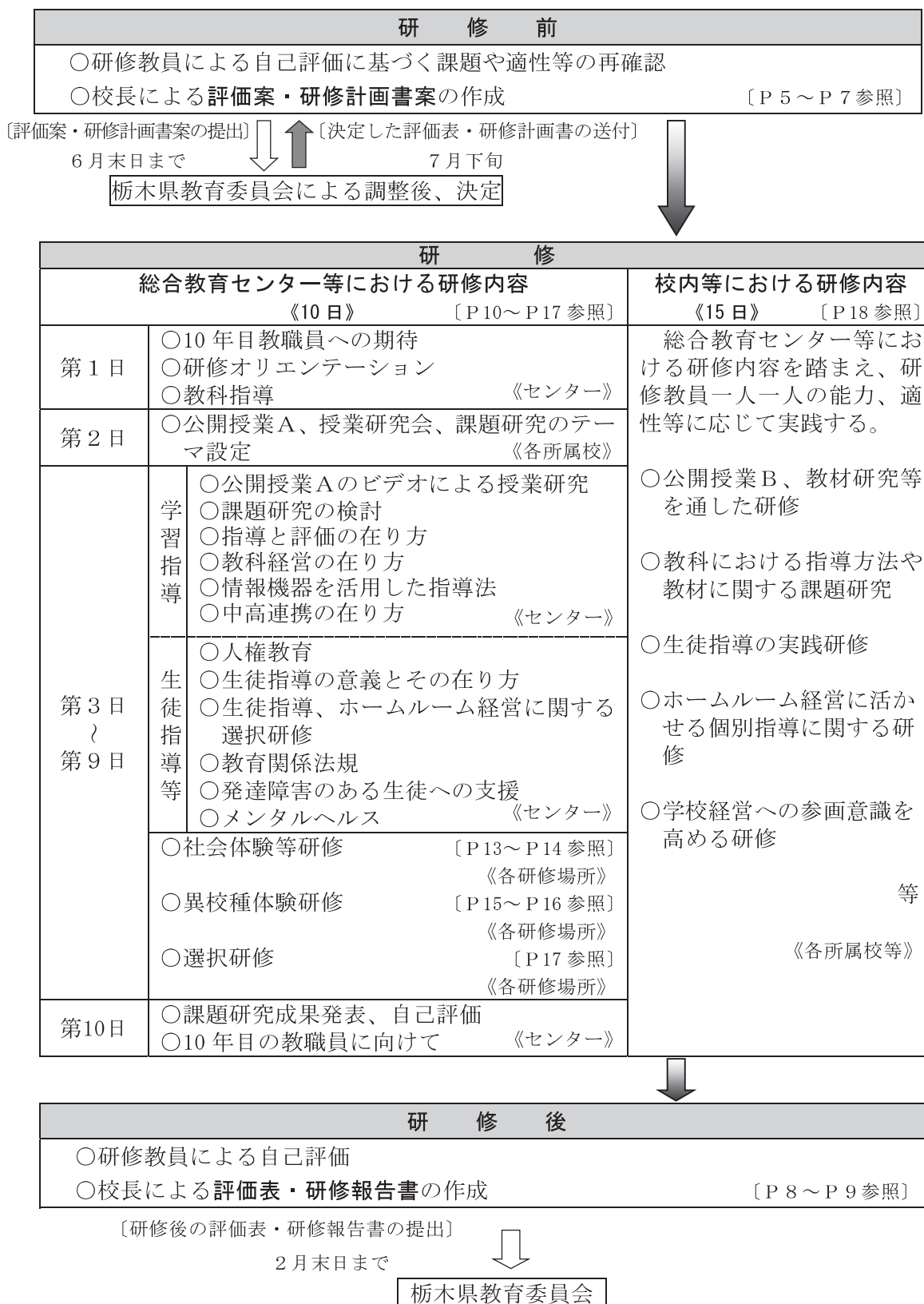
以下、公開授業については、下記のように表記する。

- ①公開授業A（総合教育センター等における研修に位置付けられた公開授業）
- ②公開授業B（校内等における研修に位置付けられた公開授業）

（※2）児童生徒による授業評価について

児童生徒が分かる喜びや学ぶ楽しさを味わえる授業を目指し、研修教員が自ら授業を評価し、工夫改善するための手立ての一つとして、児童生徒による授業評価を実施する。

2 教職 10 年目研修体系図 〈高等学校〉



〈特別支援学校〉

研 修 前	
○研修教員による自己評価に基づく課題や適性等の再確認	
○校長による 評価案・研修計画書案 の作成	〔P 5～P 7 参照〕

〔評価案・研修計画書案の提出〕 ↓ ↑ 〔決定した評価表・研修計画書の送付〕

6月末日まで 7月下旬

栃木県教育委員会による調整後、決定

研 修		
総合教育センター等における研修内容 《10日》 〔P10～P17 参照〕		校内等における研修内容 《15日》 〔P18 参照〕
第1日	○10年目教職員への期待 ○研修オリエンテーション ○学習指導 《センター》	総合教育センター等における研修内容を踏まえ、研修教員一人一人の能力、適性等に応じて実践する。 ○公開授業B、教材研究等を通じた研修 ○教科における指導方法や教材に関する課題研究 ○児童・生徒指導の実践研修 ○自立活動に関する研修 ○学校経営への参画意識を高める研修 等 《各所属校等》
第2日	○公開授業A、授業研究会、課題研究のテーマ設定 《各所属校》	
第3日 ～ 第9日	学習指導 ○課題研究（公開授業の実践を含む）の経過発表 ○指導内容・方法の工夫・改善 《センター》	
	児童・生徒指導等 ○人権教育 ○児童・生徒指導の意義とその在り方 ○児童・生徒指導、学級・ホームルーム経営に関する選択研修 ○特別支援学校における、子ども理解・保護者理解 ○教育関係法規 ○メンタルヘルス 《センター》	
	○社会体験等研修 〔P13～P14 参照〕 《各研修場所》	
	○異校種体験研修 〔P15～P16 参照〕 《各研修場所》 ○選択研修 〔P17 参照〕 《各研修場所》	
第10日	○課題研究成果発表、自己評価 ○10年目の教職員に向けて 《センター》	

研 修 後	
○研修教員による自己評価	
○校長による 評価表・研修報告書 の作成	〔P 8～P 9 参照〕

〔研修後の評価表・研修報告書の提出〕

2月末日まで

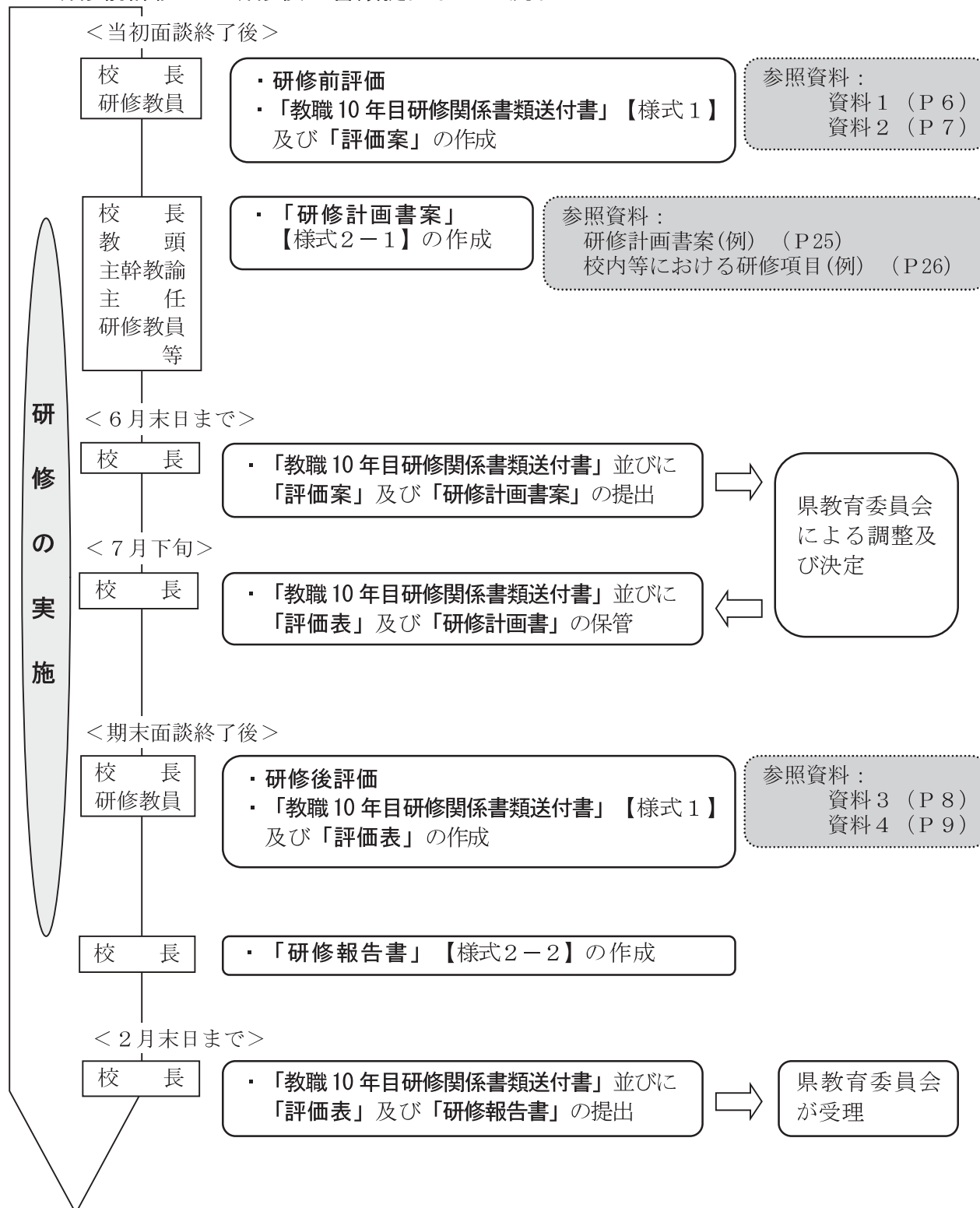
栃木県教育委員会

Ⅲ 教職10年目研修における評価、研修計画書等の作成

本研修における評価は、教職員評価制度を活用して行う。校長は、研修教員との当初面談終了後に研修前評価を行い、研修終了後には、研修の成果と期末面談を踏まえて研修後評価を行う。

研修計画書案は、研修前評価を踏まえた上で校長が作成する。研修教員が自らの課題と適性を認識し、主体的に取り組めるような計画を立てる。

1 研修前評価から研修後の書類提出までの流れ



2 研修前評価並びに「教職10年目研修関係書類送付書」及び「評価案」の作成

当初面談終了後

研修前評価は、「行動規準表」の「能力・行動」の評価段階 を評価する。「学習指導」の他、「児童・生徒指導」「参画・経営」「意欲・態度」のそれぞれの評価区分についても同様に評価する。

校長は、当初面談終了後、研修教員から提出された「行動規準表」の写しをもとに、本研修の「評価案」(資料1参照)を作成する。本来は期末面談時に研修教員が記入する評価の欄に、校長が研修前評価を記入する。本研修では、「目標・成果」については、評価しない。

校長は、「教職10年目研修関係書類送付書」【様式1】(資料2参照)を作成し、研修前の総括的所見を記入する。

(資料1)

行動規準表(教諭・助教諭・講師用)				評価段階			
学校名	職名	教諭	氏名	年齢	歳	経験年数	10年 0月
教育目標	本年度努力点		当初面談終了後、校長が記入する。				
評価区分	評価項目	評価の着眼点	評価項目	行 動 規 準	評 価		
学 習 行 動	能 力	ア指導計画の立案・実施		指導計画を適切に実施している。	a	b	c
				学習指導要領や学校の指導方針に基づき指導計画を立案・実施している。	(a)	b	c
	イ教材研究・指導方法の工夫		学校の学習指導上の諸課題を把握し、指導計画の改善を行っている。	a	b	c	S
			教材研究をして指導を行っている。	a	b	c	
			児童生徒の理解度や反応を見ながら授業を行っている。	a	b	c	A
			話し方、板書の仕方など基本技術を身につけている。	a	b	c	
			児童生徒の学習状況、障害の状態や発達段階 に即して教材の工夫を行っている。	a	(b)	c	B
			児童生徒に学力を身につけさせるためのわかる授業を展開している。	(a)	b	c	
			学習指導についての専門的知識を身につけ指導に生かしている。	(a)	b	c	C
			学校の学習指導上の諸課題について、積極的に課題解決にあたっている。	a	b	c	
ウ評価の工夫		同僚に適切な支援、助言をするなどして校内の学習指導の向上に寄与している。	a	b	c	D	
		評価を適切に実施している。	a	b	c		
指 導 成 果	ア指導計画の立案・実施 イ教材研究・指導方法の工夫 ウ評価の工夫	(今年度の具体的な目標、目標達成のための具体的な手段)			(評価基準)		
		(追加・変更)			本研修の評価は、「能力・行動」のみを対象とし、「目標・成果」については評価しない。		
【注】 段階は を付した項目、 段階は を付した項目、 段階は を付した項目を評価の対象とする。 特別支援学校(学級)の場合には下線を付した文言を後の< >内の文言に読み替えるものとする。							総合評価
第1次評価者	職名	教 頭	氏名	第2次評価者	職名	校 長	氏名
第1次評価者	柳 当 印	中 職	藤 本	第2次評価者	柳 当 印	中 職	藤 本

栃木県教育委員会教育長 様	平成 親第 号 年 月 日												
学校名 校長名	<input type="checkbox"/> 印												
平成 年度教職10年目研修における研修前の評価案等の送付について（報告）													
このことについて、下記のとおり報告いたします。													
記													
この欄に「研修前の総括 的所見」を記入する。	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%; text-align: center;">氏</td> <td style="width: 45%; text-align: center;">名</td> <td style="width: 50%;"></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td colspan="2">研修前の総括的所見</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td colspan="2">評価案（別紙）</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td colspan="2">研修計画書案（別紙）</td> </tr> </table>	氏	名		1	研修前の総括的所見		2	評価案（別紙）		3	研修計画書案（別紙）	
氏	名												
1	研修前の総括的所見												
2	評価案（別紙）												
3	研修計画書案（別紙）												
~~~~~													
3 研修報告書（別紙）													

### 3 「研修計画書案」の作成

当初面談終了後

校長は、「研修計画案」【様式2-1】を作成する。なお、作成に当たっては、以下のことに留意する。

- ・ 「研修計画書案（例）」（P25）及び「校内等における研修項目（例）」（P26）を参考にし、研修前評価に基づいて、教頭や主幹教諭、主任等の協力を得て作成する。
- ・ 研修前評価について研修教員に説明し、意見や希望等を聴取する。研修教員自らの課題や適性等を認識させるとともに、課題を明確にして本研修に主体的に取り組むよう促す。

#### (1) 総合教育センター等における研修の計画

総合教育センター等における研修のうち、第4日（コース選択による研修）、第6日（社会体験等研修）、第8日（異校種体験研修）、第9日（選択研修）については、それぞれの要項（P12～P17）等に従い、選択するコース、研修または受入先を決定し、記載する。

#### (2) 校内等における研修の計画

総合教育センター等における研修内容を踏まえ、研修教員一人一人の能力、適性等に応じて、個々の専門性の向上や得意分野の伸長ができるように計画する。

### 4 「教職10年目研修関係書類送付書」並びに「評価案」及び「研修計画書案」の提出

6月末日まで

校長は、6月末日までに、「教職10年目研修関係書類送付書」並びに「評価案」及び「研修計画書案」を、県教育委員会教育長宛て（送付先：教職員課）に提出する。

### 5 県教育委員会による調整及び決定

7月下旬

県教育委員会は、校長より提出された「評価案」及び「研修計画書案」について、必要な調整を行い、決定した「教職10年目研修関係書類送付書」並びに「評価表」及び「研修計画書」を校長に送付する。

6 研修の実施

5月～2月

校長は、決定した研修計画書に従って研修を実施する。なお、県教育委員会より送付された「評価表」、「教職10年目研修関係書類送付書」については、研修後評価で再度使用するため、校長が保管する。

7 研修後評価並びに「教職10年目研修関係書類送付書」及び「評価表」の作成

期末面談終了後

校長は、研修前評価と同様に研修後評価を行う。研修教員より提出された「行動規準表」の自己評価を参考にして期末面談を行い、研修教員を評価し、「評価表」（資料3参照）に研修後評価を記入する。なお、「教職10年目研修関係書類送付書」（資料4参照）に研修後の総括的所見を記入する。

校長は、その結果を研修教員に説明し、今後の指導や研修に活用する。また、第1次評価者及び第2次評価者の中間面談、期末面談の印については不要とする。

(資料3)

行動規準表(教諭・助教諭・講師用)						評価段階			
学校名		職名	教諭	氏名	印	年齢	歳	経験年数	10年 0月
教育目標				本年度努力点	研修の成果を踏まえて校長が記入する。				
評価分	評価項目	評価の着眼点	評価月	行動規準				評価	
学習行動	能力・行動	ア指導計画の立案・実施		指導計画を適切に実施している。	A	a b c	S A B C D		
				学習指導要領や学校の指導方針に基づき指導計画を立案・実施している。	a b c				
				学校の学習指導上の諸課題を把握し、指導計画の改善を行っている。	a b c				
		イ教材研究・指導方法の工夫		教材研究をして指導を行っている。	a b c				
		児童生徒の理解度や反応を見ながら授業を行っている。		a b c					
	ウ評価の工夫	話し方、板書の仕方など基本技術を身につけている。	a b c						
		児童生徒の学習状況、障害の状態や発達段階に即して教材の工夫を行っている。	A a b c						
		児童生徒に学力を身につけさせるためのわかる授業を展開している。	B a b c						
		学習指導についての専門的知識を身につけ指導に生かしている。	A a b c						
		学校の学習指導上の諸課題について、積極的に課題解決にあたるしている。	a b c						
指導目標・成果	ア指導計画の立案・実施 イ教材研究・指導方法の工夫 ウ評価の工夫		(今年度の具体的な目標、目標達成のための具体的な手段)				(評価基準)		
			(追加・変更)						
			本研修の評価は、「能力・行動」のみを対象とし、「目標・成果」については評価しない。						
【注】 段階は を付した項目、 段階は を付した項目、 段階は を付した項目を評価の対象とする。 特別支援学校(学級)の場合には下線を付した文言を後の< >内の文言に読み替えるものとする。								総合評価	
第1次評価者	職名	教頭	氏名	印	第2次評価者	職名	校長	氏名	印
第1次評価者	柳 節	印	中嶋 誠	第2次評価者	柳 節	印	中嶋 誠		

【注】 「児童・生徒指導」、「参画・経営」、「意欲・態度」についても、「学習指導」と同様に記入する。

平成 親第 号  
年 月 日

栃木県教育委員会教育長 様

学校名  
校長名 印

平成 年度教職10年目研修における研修前の評価案等の送付について（報告）  
このことについて、下記のとおり報告いたします。

記

---

平成 親第 号  
年 月 日

以上を、当該研修教員の評価ならびに研修計画とします。

栃木県教育委員会教育長 印

---

平成 親第 号  
年 月 日

栃木県教育委員会教育長 様

学校名  
校長名 印

平成 年度教職10年目研修における研修後の評価表等の送付について（報告）  
このことについて、下記のとおり報告いたします。

記

この欄に「研修後の総括的所見」を記入する。

氏名	氏名	氏名
1	研修後の総括的所見	
2	評価表（別紙）	
3	研修報告書（別紙）	

8 「研修報告書」の作成

研修終了後

校長は、「研修報告書」【様式2-2】に研修を実施した期日、内容等について記載し、「研修報告書」を作成する。

9 「教職10年目研修関係書類送付書」並びに「評価表」及び「研修報告書」の提出

2月末日まで

校長は、2月末日までに、研修後評価を記入した「教職10年目研修関係書類送付書」並びに「評価表」及び「研修報告書」を、県教育委員会教育長宛て（送付先：教職員課）に提出する。

10 留意事項

研修前、研修後の総括的所見を記入するための「教職10年目研修関係書類送付書」は、評価表等を送付する際の添書としても利用する。なお、「教職10年目研修関係書類送付書」及び「研修計画書案」、「研修報告書」の様式は、総合教育センターのホームページからダウンロードできる。

## Ⅳ 総合教育センター等における研修

### 1 趣 旨

総合教育センター等における研修は、学習指導、児童・生徒指導等に関して広い視野に立った豊かな識見、確かな理論、優れた実践的指導力等を養うことを目的とする。

### 2 期日及び内容

区分	期 日		研 修 内 容	会 場
	月/日	曜		
第1日	5/16	月	講話「10年目教職員への期待」 研修オリエンテーション 説明「栃木県教育振興基本計画2020－教育ビジョンとちぎ－」 【高等学校】《教科別分科会》 「教科指導の工夫・改善Ⅰ」 ・教科指導における今日的課題 ・学習指導要領の理解 ・教科別分科会年間計画の説明 ・課題研究の進め方 ・学業指導について 【特別支援学校】《教科別分科会》 「学習指導の工夫・改善Ⅰ」 ・学習指導における今日的課題 ・学習指導要領の理解 ・本県特別支援学校の現状と課題 ・教科別分科会年間計画の説明 ・課題研究の進め方	総合教育センター
第2日	6月中		公開授業A 授業研究会 課題研究テーマ設定	所属校
第3日	7/22	金	講話・演習「教育関係法規」 【高等学校】 講話「発達障害のある生徒への支援」 《教科別分科会》 「教科指導の工夫・改善Ⅱ」 【特別支援学校】 《教科別分科会》 「学習指導の工夫・改善Ⅱ」	総合教育センター
第4日	7/25	月	講話「教員のためのメンタルヘルス」 講話「児童・生徒指導の意義とその在り方」 児童・生徒指導、学級・ホームルーム経営に関する研修（コース選択による研修） （P12参照）	総合教育センター
第5日	8/10	水	【高等学校】 《教科別分科会》 「教科指導の工夫・改善Ⅲ」 【特別支援学校】 《教科別分科会》 「学習指導の工夫・改善Ⅲ」	総合教育センター
第6日	夏季休業中		社会体験等研修 （P13～P14参照）	各研修場所

区分	期 日		研 修 内 容	会 場
	月/日	曜		
第7日	10/7	金	講話「人権を尊重した教育活動の展開」 講話・演習「学校組織マネジメントの理解」 【高等学校】《教科別分科会》 「教科指導の工夫・改善IV」 【特別支援学校】 講話「特別支援学校における子ども理解」 研究協議「保護者理解を深めるために」	総合教育センター
第8日	9月～12月		異校種体験研修 (P15～P16参照)	各研修場所
第9日	6月～12月		選択研修 (P17参照)	各研修場所
第10日	1/6	金	【高等学校】《教科別分科会》 「教科指導の工夫・改善V」 ・課題研究成果発表 ・研修自己評価 【特別支援学校】《教科別分科会》 「学習指導の工夫・改善IV」 ・課題研究成果発表 ・研修自己評価 講話「10年目の教職員に向けて」	総合教育センター

*研修会場別日程表

総合教育センター	各所属校	各研修場所		
	公開授業A	社会体験等研修	異校種体験研修	選択研修
第1日(5/16)	第2日	第6日	第8日	第9日
第3日(7/22)	(6月中)	(夏季休業中)	(9月～12月)	(6月～12月)
第4日(7/25)				
第5日(8/10)				
第7日(10/7)				
第10日(1/6)				

### 3 公開授業 A

#### (1) 趣 旨

授業の公開及び授業研究会を通して、学習指導における自らの課題を明らかにし、学習指導力の向上を図る。なお、校長はこれらの結果を踏まえ、研修計画を立案する。

#### (2) 実施時期及び内容

公開授業 A は、原則として、6 月中に実施する。その際、必ずビデオ撮影を行う。また、児童生徒による授業評価と授業研究会を行い、成果と課題についてまとめる。研修教員は、撮影したビデオを学習指導案とともに、第 3 日（7/22）に持参する。

詳細については、第 1 日（5/16）の教科別分科会で説明する。

* 特別支援学校においては、児童生徒による授業評価はできる範囲で行う。

### 4 児童・生徒指導、学級・ホームルーム経営に関する研修のコース選択

次の A～C の三つのコースの中から、自己の能力、適性等に応じて一つを選択し受講することによって、児童・生徒指導、学級・ホームルーム経営に関する指導力の向上を図る。

#### (1) 研修内容

##### ○ A コース 「保護者理解 ～“気になる保護者”とのつながりを求めて～」

様々な場面における保護者の思いや考えを理解し、良好な関係をつくる姿勢を身に付ける。さらに、演習を通して保護者との協力関係を築く上で必要な方法について理解する。

- ・ 講話「保護者理解 ～“気になる保護者”とのつながりを求めて～」
- ・ 演習「様々な場面における保護者理解」

##### ○ B コース 「生徒理解 ～思春期・青年期の特徴をふまえて～」

多様化する生徒の課題に対応するために、思春期・青年期の特徴について理解を深める。さらに、事例の検討を通して様々な配慮を要する生徒との関わり方について具体的に学ぶ。

- ・ 講話「生徒理解 ～思春期・青年期の特徴をふまえて～」
- ・ 事例検討「思春期・青年期の生徒の理解に向けて」

##### ○ C コース 「いじめの理解と対応

～いじめのない明るい学級・ホームルームを目指して～

いじめの問題についての基本的な考え方や対応の在り方を理解する。さらに、研究協議を通して、いじめへの実際的な対応方法を学ぶとともに、学級・ホームルーム担任としていじめを未然に防止するための取組について考える。

- ・ 講話「いじめの理解と対応  
～いじめのない明るい学級・ホームルームを目指して～」
- ・ 研究協議「いじめの予防と対策」

## (2) コース決定までの流れ

ア 研修教員は、校長と協議の上、希望するコースを第2希望まで選択して、5月31日(火)までに、総合教育センターホームページ(<http://www.tochigi-edu.ed.jp/center>)内の教職10年目研修(高・特)のページにて、希望するコースを入力する。なお、入力の手順等については、第1日(5/16)に説明を受ける。

イ 総合教育センターは、各コースの希望人数等を調整して受講コースを決定する。なお、調整の結果、第1希望のコースが受講できない研修教員にのみ6月10日(金)までに連絡する。連絡がない場合は、希望どおりとする。

## 5 社会体験等研修

### (1) 趣 旨

学校以外の施設等における体験を通して、社会の構成員としての視野を広げるとともに、地域社会との連携を図り、教育の諸課題に適切に対処できる能力の向上を図る。

### (2) 実施方法及び留意点

ア 原則として、夏季休業中に1日実施する。

イ 校長の判断により、土・日曜日の研修も認める。

ウ 校長の判断により、インターンシップ等で課業中に生徒と同一の場所で活動する場合も研修として認める。ただし、生徒の引率は除く。

エ 研修先は原則として県内とする。

オ 保険加入に関しては、研修先の担当者と相談して決定する。なお、費用については自己負担とする。

カ 「教員の社会体験研修」を受講した研修教員は、これをもって社会体験等研修に代替することができる。ただし、校長の判断により実施することができる。

### (3) 研修先

次の中から一つ選択する。

#### ○福祉施設体験

高齢者福祉施設や障害者福祉施設等での介護体験や業務運営の補助 等

#### ○民間企業体験

事務、営業、製造業務の補助 等

#### ○生涯学習関連施設体験

栃木県芳賀青年の家、県立太平少年自然の家、県立なす高原自然の家、県立美術館、県立博物館、栃木県子ども総合科学館等における事業運営の補助 等

#### ○ボランティア活動体験

県、市町及び民間組織の主催するボランティア活動への参加 等



#### (4) 研修手続き及び報告書の提出

- ① 研修教員は、校長と協議の上、研修のねらい、研修先、研修計画等を企画・立案する。
- ② 研修教員は、研修先に自ら連絡を入れ、本研修の趣旨やねらいを説明し、研修日時や研修計画等について了承を得る。その際、第1日（5/16）に配布する別紙「教職10年目研修において、社会体験等研修を実施します」を参考に説明してもよい。
- ③ 研修教員は、研修先での了承を得た後、「社会体験等研修依頼書」【様式3-1】に研修日、研修計画等を記入し校長に提出する。
- ④ 校長は、研修教員から提出された「社会体験等研修依頼書」を確認し、研修先に送付する。その際、「社会体験等研修承諾書」【様式3-2】を同封する。
- ⑤ 同封した「社会体験等研修承諾書」を研修先より校長宛てに返送してもらう。なお、この承諾書については学校保管とする。
- ⑥ 研修教員は、社会体験等研修終了後、「選択研修等報告書」【様式4】に研修内容や感想等を記入する。なお、研修教員は、礼状を作成し研修先に送付する。
- ⑦ 報告書の提出については、8「社会体験等研修」、「異校種体験研修」及び「選択研修」の報告書の提出（P17）を参照する。
- ⑧ 「教員の社会体験研修」を受講し、これをもって社会体験等研修に代替した際は、「選択研修等報告書」【様式4】の「○社会体験等研修」の研修内容欄に、教員の社会体験研修で代替と明記する。

## 6 異校種体験研修

### (1) 趣 旨

異校種におけるティーム保育、ティーム・ティーチング（以下、T・Tと記す）による授業実践及び授業参観等を通して、保育、学習指導、児童・生徒指導、学年・学級・ホームルーム経営の在り方、特別支援教育等について理解するとともに、教員としての視野を広げ、指導力の向上を図る。

### (2) 研修期日

9月から12月までの期間の1日とする。

### (3) 研修先の選定

ア 研修教員が所属する学校の近隣の幼稚園、保育所、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校を原則とする。研修教員自身の課題及び伸ばしたい資質・能力に応じた異校種を選択し、校長と協議の上、選定する。

イ 幼稚園又は保育所を選定する場合、総合教育センター幼児教育部が主管する、専門研修1「幼小連携推進者養成研修」の会場校を除く。なお、その会場校は、第1日（5/16）に示す。

### (4) 研修内容

ア 保育、授業参観

イ ティーム保育やT・Tによる授業実践、授業研究

ウ 研究協議（異校種における学習指導、児童・生徒指導、学年・学級・ホームルーム経営の理解等）

### (5) 研修当日の日程について

当日は、受入校の日課に沿って研修を進める。以下に、日程の例を示す。

時間(校時)	研 修 内 容	備 考
始業前	登校指導、朝の読書指導	
朝の打合せ	打合せ事項の確認	
朝の会	朝の会の参観、生徒への自己紹介	
1校時	授業参観	
2校時	授業準備・打合せ	
3校時	T・Tによる授業実践	
4校時	授業参観	
給 食	給食指導	
昼休み・清掃	生徒とのふれあい、清掃指導	
5校時	授業参観	
6校時	学級活動の参観	
放課後	授業研究及び研究協議	

(6) 研修手続きから報告書の提出までの流れ

	研修教員の所属校	研修教員の受入校
受入校の決定	<p>① 研修教員が受入校を選び、校長と協議の上、選定する。</p> <p>② 校長は、<u>受入校の園長、所長又は校長に連絡を入れ、受入れの了承を得る。</u></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><b>&lt;受入校への申込期間&gt;</b>            ○第1次：5月30日（月）～6月3日（金）            研修内容（教科、学年等）、希望期日等を申し入れる。</p> <p>○第2次：6月6日（月）～6月10日（金）            第1次で了承が得られなかった場合は、別の受入校に連絡を取り、決定する。</p> </div>	<p>園長、所長又は校長は、受入れ人数や日程の調整を図り、研修教員の所属校に受入れの可否を伝える。</p>
事前の準備	<p>③ 研修教員は、受入れの了承を得た後、受入校の校長等に改めて研修内容（T・Tによる授業の教科、学年等）の希望を伝える。</p> <p>④ 授業の教科、学年等が決定した後、担当教職員と連絡を取りながら、以下の準備を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各校種の理解及び幼児児童生徒の実態の聴取</li> <li>・授業プランの作成</li> <li>・授業参観及び研究協議の計画</li> </ul>	<p>校長等は、研修教員の研修内容を聴取し、担当教職員を選定（教科、学年等）するとともに、研修内容・方法等の準備に協力するよう指示する。</p> <p>なお、担当教職員が学級担任でない場合は、学級配属のための担当教職員をつける。</p>
実践	<p>⑤ 研修教員は、担当教職員の支援を得ながら、以下の研修を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チーム保育やT・Tによる授業実践</li> <li>・授業研究</li> <li>・授業参観及び研究協議（異校種における学習指導、児童・生徒指導、学年・学級・ホームルーム経営の理解）</li> </ul>	<p>校長等及び担当教職員は、計画に沿った研修を円滑に進められるよう支援する。</p>
終了後	<p>⑥ 研修教員は、異校種体験研修終了後、「選択研修等報告書」【様式4】に研修内容や感想等を記入する。なお、報告書の提出については、8「社会体験等研修」、「異校種体験研修」及び「選択研修」の報告書の提出（P17）を参照する。</p>	

## 7 選択研修

### (1) 趣 旨

主体的に各種研修や研究大会等に参加することにより、教員としての専門性や幅広い教養を身に付ける。

### (2) 研修期日

6月から12月までの期間の1日とする。

### (3) 選定要件

ア 自主的・主体的に選んで参加するもので、次の機関または団体等が主催する研修及び研究大会等。

① 総合教育センター

・開催要項に示されている研修のうち、専門研修2、専門研修3、生涯学習研修より選択する。

② 栃木県教育委員会

③ 宇都宮大学及び宇都宮大学教育学部附属幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校

④ 栃木県高等学校教育研究会

⑤ 栃木県連合教育会

⑥ 社会教育施設

イ 研修教員の能力、適性等の向上に役立つと校長が判断した場合、アの機関または団体等以外が主催する研修も認める。

ウ 選択する研修は、半日以上のものである。研修及び研究大会等が2日以上開催される場合は、全日程に参加することが条件である。

### (4) 留意点

ア 研修教員は、校長と協議の上、研修または研究大会等を選定する。

イ 総合教育センター等における研修の期日との重複を避ける。

### (5) 研修手続き及び報告書の提出

ア 研修手続きは、校長の命令を受けて、各学校が行う。

イ 報告書の提出については、8「社会体験等研修」、「異校種体験研修」及び「選択研修」の報告書の提出を参照する。

## 8 「社会体験等研修」、「異校種体験研修」及び「選択研修」の報告書の提出

研修教員は、「社会体験等研修」「異校種体験研修」「選択研修」がすべて終了した後、「選択研修等報告書」【様式4】に必要事項を記入し、校長に提出する。

校長は、研修教員から提出された「選択研修等報告書」を確認し、第10日（1／6）までに、総合教育センター所長宛て（送付先：研修部）に提出する。

送付する際は、封筒に「教職10年目研修関係書類在中」と朱書する。

なお、「選択研修等報告書」の様式は、総合教育センターのホームページからダウンロードできる。

## V 校内等における研修

### 1 趣 旨

総合教育センター等における研修内容を踏まえて、研修教員の能力、適性等に応じた校内研修を実施することにより、個々の専門性の向上や得意分野の伸長を図る。

### 2 研修日数

研修は、年間15日実施する。そのうち、2日を公開授業Bに、1日を課題研究成果発表に当てるものとする。

### 3 研修内容及び方法

#### (1) 内 容

研修内容は、研修前評価の結果に基づき、学習指導、児童・生徒指導、進路指導、学年・学級・ホームルーム経営、特別活動、自立活動、学校経営に関する領域等を中心とする。それぞれの研修内容については、「校内等における研修項目（例）」（P26）を参考にする。

#### (2) 公開授業Bについて

授業研究や教材・教具の開発及び教材研究を通して、9月から12月までの期間に学習指導における公開授業を2日実施する。その際、公開授業後に授業研究会等を開催し、指導法の改善や評価の在り方について理解を深めるとともに、これまでの研修の成果を確認し、課題研究の検証の場とする。

#### (3) 方 法

研修は、原則として学校内において実施し、校長等の指導及び助言を受けるものとする。

### 4 指導体制

(1) 校長は、教職員全体に対し、本研修の内容及び運営について理解を求めるとともに、学校や研修教員の実情、指導内容と校務分掌との関連等に配慮して、校内等における研修の指導組織及び推進体制を確立する。

(2) 校長等は、研修教員に対し、講話や授業研究等の指導及び助言を行い、年間を通して計画的、組織的な研修となるよう、指導に携わる教職員との連絡・調整を図る。

### 5 実施上の配慮事項

(1) 校長は、研修教員の個性や経験の状況等に応じ、研修方法や形態を工夫するとともに、研修教員本人の自己評価や意見等を聴取することによって、研修教員が主体的に研修できるよう配慮する。

(2) 校長は、研修教員が授業等の校務に支障がないよう、また研修の時間を十分に取ることができるよう、必要に応じて担当授業時間数や校務分掌等において配慮する。

(3) 校長は、必要に応じて近隣の学校等の協力を得て研修を実施してもよい。

## VI 課 題 研 究

### 1 趣 旨

研修教員の資質・能力や学校の実情に応じて、学習指導における今日的な課題をもとに研究テーマを設定し、主体的に課題の解明に取り組むことにより、実践的指導力の向上を図る。

### 2 研究テーマの設定

次のような例を参考にし、研究テーマを設定する。

《研究テーマの例》

- ・わかる授業の在り方
- ・基礎・基本の定着を図る指導の在り方
- ・個に応じた指導の在り方
- ・評価を生かした授業の在り方
- ・自ら学び自ら考える力の育成を図る指導の在り方
- ・学習意欲を高める指導の工夫

### 3 研究の進め方

(1) 高等学校の研修教員は、学校の実情や各自の課題意識、総合教育センター等における研修の第1日（5/16）の教科別分科会等をもとに、6月中に公開授業Aを実施し、研究テーマを設定する。第3日（7/22）までに、校長等の指導及び助言を受け、「課題研究計画書」【様式5-1】を作成する。

特別支援学校の研修教員は、研究テーマを設定後公開授業Aを実施する。また、校長等の指導及び助言を受け、「課題研究計画書」を6月17日までに教育相談部研修担当指導主事に提出する。

(2) 高等学校の研修教員は、総合教育センター等における研修の第3日（7/22）に、課題研究の進め方について「課題研究計画書」をもとに検討する。特別支援学校の研修教員は、第3日（7/22）、第5日（8/10）に、課題研究の進捗状況について持参資料と撮影したビデオをもとに発表する。

(3) 研修教員は、課題研究の実施計画について校長の承認を得た後、第10日（1/6）までの間に自主的、計画的に課題を追究する。その際、公開授業Bを課題研究の検証の場として位置付ける。校長等は、授業研究会等を通して課題研究についての指導及び助言を行う。

(4) 研修教員は、11月18日（金）までに、「課題研究中間報告書」【様式5-2】及び課題研究成果の資料を、高等学校の研修教員は教科担当指導主事に、特別支援学校の研修教員は教育相談部研修担当指導主事にそれぞれ提出する。

(5) 研修教員は、校長、総合教育センター職員等の指導及び助言を参考にして研究を進め、総合教育センター等における研修の第10日（1/6）に、課題研究成果発表を行う。

(6) 総合教育センター等における研修の第10日以降に、校内等における研修に位置付けられた課題研究成果発表を行う。

### 4 研究の実施報告

校長は、2月末日までに、「課題研究報告書」【様式5-3】及び課題研究成果の資料を、総合教育センター所長宛て（送付先：研修部）に提出する。

送付する際は、封筒に「教職10年目研修関係書類在中」と朱書する。

# 〔資料〕

## ○ 提出書類の様式

教職10年目研修関係書類送付書	【様式1】
研修計画書案	【様式2-1】
研修報告書	【様式2-2】
社会体験等研修依頼書	【様式3-1】
社会体験等研修承諾書	【様式3-2】
選択研修等報告書	【様式4】
課題研究計画書	【様式5-1】
課題研究中間報告書	【様式5-2】
課題研究報告書	【様式5-3】

(注) 文書の形式はすべて、A4判縦、横書きとします。なお、提出書類の様式は、栃木県総合教育センターのホームページからダウンロードできます。

※ 栃木県総合教育センターのホームページアドレス

<http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/>

- 研修計画書案 (例)
- 校内等における研修項目 (例)
- 提出文書等チェックリスト

教職10年目研修関係書類送付書【様式1】

〇〇〇親第〇〇号  
平成〇〇年〇月〇日

栃木県教育委員会教育長 様

学校名  
校長名 印

平成〇〇年度教職10年目研修における研修前の評価案等の送付について（報告）  
このことについて、下記のとおり報告いたします。

記

受講番号	氏名
1	研修前の総括的所見
2	評価案（別紙）
3	研修計画書案（別紙）

教職親第〇〇号  
平成〇〇年〇月〇日

以上を、当該研修教員の評価ならびに研修計画とします。

栃木県教育委員会教育長 印

〇〇〇親第〇〇号  
平成〇〇年〇月〇日

栃木県教育委員会教育長 様

学校名  
校長名 印

平成〇〇年度教職10年目研修における研修後の評価表等の送付について（報告）  
このことについて、下記のとおり報告いたします。

記

受講番号	氏名
1	研修後の総括的所見
2	評価表（別紙）
3	研修報告書（別紙）





社会体験等研修依頼書【様式3-1】

平成〇〇年〇〇月〇〇日

研 修 先  
代 表 者 名 様

学 校 名  
校 長 名 印

平成〇〇年度教職10年目研修 社会体験等研修について(依頼)

このことについて、下記のとおり依頼いたします。

記

氏 名	
研 修 日	
研修のねらい	
研修計画	

社会体験等研修承諾書【様式3-2】

平成〇〇年〇〇月〇〇日

〇〇〇〇学校長 様

研 修 先  
代 表 者 名 印

平成〇〇年度教職10年目研修 社会体験等研修について(回答)

このことについて、下記のとおり承諾いたします。

記

氏 名	
研 修 日	

選択研修等報告書【様式4】(A4判 両面印刷)

<p style="text-align: right;">平成〇〇年〇〇月〇〇日</p> <p>総合教育センター所長 様</p> <p style="text-align: right;">学 校 名 校 長 名</p> <p>平成〇〇年度教職10年目研修 選択研修等について(報告)</p> <p>このことについて、下記のとおり報告いたします。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%;">受講番号</td> <td style="width: 10%;"></td> <td style="width: 10%;">氏 名</td> <td style="width: 60%;"></td> </tr> </table> <p><b>○選択研修</b></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">研 修 日</td> <td colspan="3">平成 年 月 日 ( )</td> </tr> <tr> <td>選定要件(番号)</td> <td></td> <td>主催団体</td> <td></td> </tr> <tr> <td>研修または 研究大会等名</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>研修内容</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>感 想</td> <td colspan="3"></td> </tr> </table>	受講番号		氏 名		研 修 日	平成 年 月 日 ( )			選定要件(番号)		主催団体		研修または 研究大会等名				研修内容				感 想				<p><b>○社会体験等研修</b></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">研 修 日</td> <td colspan="3">平成 年 月 日 ( )</td> </tr> <tr> <td>研修先名</td> <td></td> <td>住 所</td> <td></td> </tr> <tr> <td>研修内容</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>感 想</td> <td colspan="3"></td> </tr> </table> <p><b>○異校種体験研修</b></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">研 修 日</td> <td colspan="3">平成 年 月 日 ( )</td> </tr> <tr> <td>受入校名</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>研修のねらい</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>研修内容</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>感 想</td> <td colspan="3"></td> </tr> </table>	研 修 日	平成 年 月 日 ( )			研修先名		住 所		研修内容				感 想				研 修 日	平成 年 月 日 ( )			受入校名				研修のねらい				研修内容				感 想			
受講番号		氏 名																																																											
研 修 日	平成 年 月 日 ( )																																																												
選定要件(番号)		主催団体																																																											
研修または 研究大会等名																																																													
研修内容																																																													
感 想																																																													
研 修 日	平成 年 月 日 ( )																																																												
研修先名		住 所																																																											
研修内容																																																													
感 想																																																													
研 修 日	平成 年 月 日 ( )																																																												
受入校名																																																													
研修のねらい																																																													
研修内容																																																													
感 想																																																													

※選定要件は、P17にある「(3) 選定要件 ア」の中から、該当する番号①～⑥を記入する。  
選定要件がイの場合は⑦と記入する。

### 課題研究計画書【様式5-1】

平成〇〇年度教職10年目研修 課題研究計画書					
			受講番号		
学校名		氏名		教科	
(注)					
1 研究テーマ					
2 テーマ設定の理由					
3 課題研究の主な内容					

### 課題研究中間報告書【様式5-2】

平成〇〇年度教職10年目研修 課題研究中間報告書					
			受講番号		
学校名		氏名		教科	
(注)					
1 研究テーマ					
2 テーマ設定の理由					
3 課題研究の進捗状況					
4 今後の課題と研究の予定					

### 課題研究報告書【様式5-3】

平成〇〇年度教職10年目研修 課題研究報告書					
			受講番号		
学校名		氏名		教科	
(注)					
1 研究テーマ					
2 テーマ設定の理由					
3 課題研究の主な内容					
4 研究の成果と今後の課題					
平成〇〇年〇〇月〇〇日					
総合教育センター所長 様					
以上のとおり実施しましたので、報告します。					
学校名					
校長名					

(注) 特別支援学校の場合は「教科」を「所属学部等」(例：小3通常、中2重複)に変えること。

## 研修計画書案（例）

平成〇〇年度教職10年目研修  
研修計画書案

栃木県立〇〇〇〇高等学校  
校長 〇 〇 〇 〇

1 研修教員氏名

受講番号 〇〇  
氏名 〇 〇 〇 〇 (教科 〇〇)

2 研修の重点目標

- (1)  
(2)  
(3)

3 年間研修計画

(1) 内容

- ア 総合教育センター等における研修（10日）
- ・学習指導等（5日）
  - ・生徒指導、ホームルーム経営（1日）
  - ・公開授業A、課題研究（1日）
  - ・社会体験等研修（1日）
  - ・異校種体験研修（1日）
  - ・選択研修（1日）

- イ 校内等における研修（15日）
- ・公開授業B（2日）
  - ・学習指導に関する研修（4日）
  - ・生徒指導に関する研修（3日）
  - ・ホームルーム経営に関する研修（2日）
  - ・進路指導に関する研修（1日）
  - ・学校経営への参画意識を高める研修（2日）
  - ・課題研究成果発表（1日）

(2) 日程及び内容

総合教育センター等における研修		
1	5/16	講話「10年目教職員への期待」 教科別分科会「教科指導の工夫・改善Ⅰ」
2	6/〇	公開授業A 授業研究会 課題研究テーマ設定
3	7/22	講話・演習「教育関係法規」 講話「発達障害のある生徒への支援」 教科別分科会「教科指導の工夫・改善Ⅱ」
4	7/25	講話「教員のためのメンタルヘルス」 講話「児童・生徒指導の意義とその在り方」 児童・生徒指導、ホームルーム・学級経営に関する 選択研修 ○コース「〇〇〇〇〇〇〇〇〇」
5	8/10	教科別分科会「教科指導の工夫・改善Ⅲ」
6	〇/〇	社会体験等研修「福祉施設体験」 研修場所：〇〇老人ホーム 研修内容：介護体験、環境整備 等
7	10/7	講話「人権を意識した教育活動の展開」 講話・演習「学校組織マネジメントの理解」 教科別分科会「教科指導の工夫・改善Ⅳ」
8	〇/〇	異校種体験研修 研修場所：〇〇市立〇〇中学校
9	〇/〇	選択研修「〇〇〇研修」 主催団体：〇〇〇〇
10	1/6	教科別分科会「教科指導の工夫・改善Ⅴ」 講話「10年目の教職員に向けて」

校内等における研修		
1	7/8	校長講話「教育専門職としての教員の使命」 個人研究「学校評価の理解」
2	8/中	学習指導 個人研究「小・中・高の系統性を考慮した 指導の研究」
3	9/2	学習指導 校長、学習指導部長、教科主任等との公開 授業Bの事前研究会
4	9/9	学習指導 授業参観、教材分析
5	10/上	公開授業B・授業研究会 1年1組「国語総合」において実施
6	10/中	生徒指導 「保健室での生徒実態の把握」
7	10/21	生徒指導 講話・実習「教育相談の実践」
8	11/中	公開授業B・授業研究会 1年2組「国語総合」において実施
9	11/下	生徒指導 講話・事例研究「問題行動への対応」
10	12/9	学習指導 「教育機器を活用した指導の実践」
11	12/16	ホームルーム経営 研究協議「効果的な朝の読書の在り方」
12	1/上	ホームルーム経営 講話・演習「生徒への個別指導の在り方」
13	1/13	進路指導 講話「効果的な進路学習の進め方」 レポート「進路学習の効果的な推進」
14	1/下	学校経営への参画 教頭講話「特色ある学校づくり」
15	2/13	課題研究成果発表 校長講話

※日程が確定しないものについては上（上旬）、中（中旬）、下（下旬）と記入する。

## 校内等における研修項目（例）

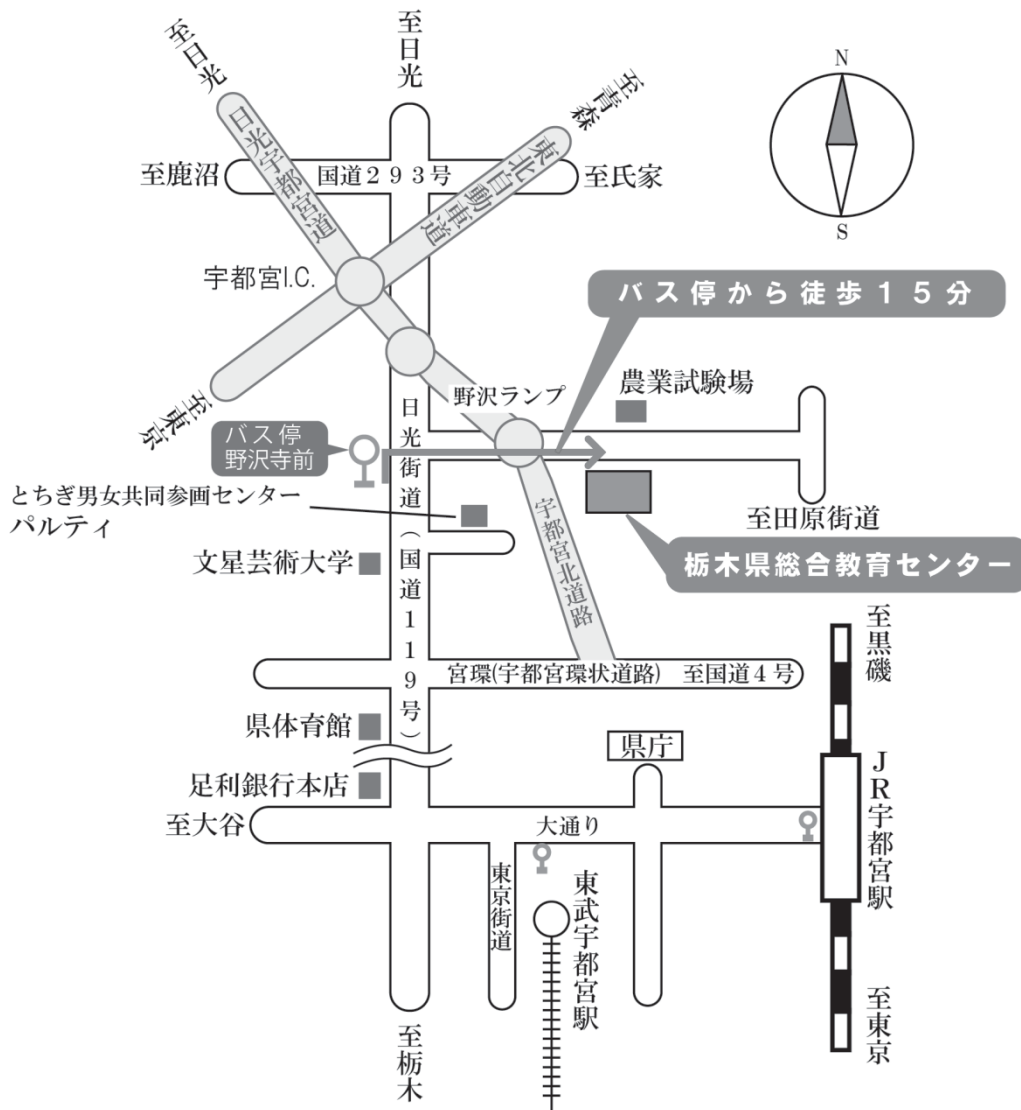
領域等	研修内容の例
学習指導に関する内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領の理解</li> <li>・学習評価の方法と実際</li> <li>・指導と評価の一体化への取組</li> <li>・教材・教具の作成</li> <li>・先輩教員の授業参観、授業研究</li> <li>・教科指導法の研究及び実践（効果的な実験・実習の導入、教育機器の活用、個に応じた指導、体験学習、小集団活動の在り方等）</li> <li>・学習意欲を高める授業展開の工夫</li> <li>・基礎・基本を定着させるための授業展開の工夫</li> <li>・問題解決的な学習の実践と指導の在り方</li> <li>・効果的な家庭学習の在り方の研究</li> <li>・小中高の系統性を考慮した指導の研究</li> <li>・総合的な学習の時間における指導法の工夫</li> <li>・公開授業に関する事前研究</li> <li>・年間指導計画の作成と検討</li> <li>・評価問題の作成と分析</li> <li>・教材分析、教材研究</li> <li>・学習指導案の作成と検討</li> </ul>
児童・生徒指導に関する内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童・生徒指導の意義とその在り方</li> <li>・本校の児童生徒の実態把握</li> <li>・教育相談（カウンセリング）の在り方</li> <li>・効果的な事例研究会の実践</li> <li>・問題行動等への対応の在り方</li> <li>・家庭・地域・関係機関との効果的な連携の在り方</li> <li>・保健・安全教育の進め方の研究</li> <li>・発達障害のある児童生徒への対応の在り方</li> <li>・児童生徒理解の在り方</li> <li>・保健室での生徒の実態把握</li> </ul>
進路指導に関する内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・効果的な進路学習の進め方</li> <li>・人間としての在り方生き方指導の研究</li> <li>・進路情報資料の効果的な活用の在り方</li> <li>・望ましい職業観・勤労観を身に付けさせるための取組</li> </ul>
学年・学級・ホームルーム経営に関する内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒への個別指導の在り方</li> <li>・教室環境整備への取組</li> <li>・効果的な朝の読書指導の在り方</li> <li>・学年・学級経営の評価と改善</li> <li>・集団づくりの意義とその在り方</li> <li>・家庭訪問、保護者面談の在り方</li> <li>・効果的な学級通信の工夫</li> </ul>
特別活動に関する内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会活動、委員会活動の活性化に向けた取組</li> <li>・学校行事等の効果的な運営の在り方</li> <li>・交流教育の進め方</li> <li>・部活動指導の在り方</li> <li>・ボランティア活動の推進</li> </ul>
自立活動に関する内容 （特別支援学校）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・点字の理解と指導法の研究</li> <li>・手指法の理解と指導法の研究</li> <li>・運動・動作の基本的技能指導の在り方</li> <li>・病弱児の生活管理の指導法の研究</li> <li>・視覚認知支援の在り方</li> <li>・歩行指導法の研究と実践</li> <li>・聴覚学習の指導法の研究</li> <li>・日常基本動作の指導法の研究</li> <li>・言語指導の在り方</li> <li>・検査機器の利用法の在り方</li> </ul>
学校経営への参画意識を高める内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特色ある学校づくりへの参画</li> <li>・学校評議員制度の理解</li> <li>・危機管理意識の高揚</li> <li>・開かれた学校づくりへの参画</li> <li>・学校評価の理解</li> <li>・教育専門職としての教員の使命</li> </ul>
その他の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権教育の理解と指導法の研究</li> <li>・国際理解教育の理解と推進</li> <li>・情報教育の理解と推進</li> <li>・道徳教育の指導の在り方</li> <li>・各種研究大会への参加</li> <li>・大学、大学院等の講座への参加</li> <li>・民間企業等が開設する研修等への参加</li> <li>・環境教育の理解と指導法の研究</li> <li>・福祉教育の理解と指導法の研究</li> <li>・特別支援教育の理解と指導法の研究</li> <li>・生涯学習の理解</li> <li>・教育書や専門書のレポート提出</li> </ul>

## 提出文書等チェックリスト

提出文書等	参照様式	提出先	期限
<input type="checkbox"/> 教職10年目研修関係書類送付書 及び評価案 《研修前評価》	<b>【様式1】</b> P 21	県教育委員会教育長 (送付先：教職員課)	6月末日
<input type="checkbox"/> 研修計画書案	<b>【様式2-1】</b> P 22	(注) 関係書類送付書及び評価案、研修計画書案を併せて送付する。	
<input type="checkbox"/> 社会体験等研修依頼書 * 社会体験等研修承諾書を同封し、返送してもらう。	<b>【様式3-1】</b> <b>【様式3-2】</b> P 23	研修先の施設長等	了承後
<input type="checkbox"/> 選択研修等報告書	<b>【様式4】</b> P 23	総合教育センター所長 (送付先：研修部)	1月6日 (第10日)
<input type="checkbox"/> 課題研究報告書 及び課題研究成果の資料	<b>【様式5-3】</b> P 24	総合教育センター所長 (送付先：研修部)	2月末日
<input type="checkbox"/> 教職10年目研修関係書類送付書 及び評価表 《研修後評価》	<b>【様式1】</b> P 21	県教育委員会教育長 (送付先：教職員課)	2月末日
<input type="checkbox"/> 研修報告書	<b>【様式2-2】</b> P 22	(注) 関係書類送付書及び評価表、研修報告書を併せて送付する。	

※送付する際は、封筒に「教職10年目研修関係書類在中」と朱書してください。

# 栃木県総合教育センター案内図



## 栃木県総合教育センター

- ◆所在地 ☎320-0002 栃木県宇都宮市瓦谷町 1070 番地
- ◆電話 市外局番 028
- |                          |                             |
|--------------------------|-----------------------------|
| 総務部 ☎665-7200 FAX 7217   | 幼児教育部 ☎665-7215 FAX 7216    |
| 生涯学習部 ☎665-7206 FAX 7219 | (幼児教育センター)                  |
| 研修部 ☎665-7202 FAX 7218   | 学習情報センター ☎665-7207 FAX 7219 |
| 研究調査部 ☎665-7204 FAX 7303 | 情報教育室 ☎665-7208             |
| 教育相談部 ☎665-7210 FAX 7212 | 教育相談室 ☎665-7211             |

<http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/>



とちまるくん



# いきいき栃木っ子3あい運動